

# ご寄付の方法

大阪大学未来基金へのご寄付につきましては、さまざまな方法をご用意しております。  
大阪大学未来基金ウェブサイトからご寄付のお申込みや払込取扱票の請求が可能です。

## 個人



### クレジットカード

本学ウェブサイトからお手続きが可能です。  
VISA、MasterCard、JCB、  
AmericanExpressのクレジットカードが  
ご利用いただけます。



### ATMや ネットバンキングでの振込

本学ウェブサイトでの手続き後に送信される  
メールに記載の指定口座  
(三菱UFJ銀行または三井住友銀行の  
いずれか)をご利用いただけます。



### 金融機関窓口での振込

本学ウェブサイトからお申込み後  
数日で本学から払込取扱票を  
お送りしますので、各金融機関の  
窓口をご利用いただけます。



### コンビニ決済

本学ウェブサイトでお手続き後、ご連絡する  
番号をコンビニ端末で入力いただくか、  
お送りする払込取扱票を使いコンビニからの  
お振込みがご利用いただけます。



### PayPay

本学ウェブサイトから  
PayPayでのご寄付が可能になりました。  
「PayPayマネー」での寄付ができます。



### リユースによる寄付

ご不要の本、金券、ブランド品、貴金属等  
のご寄付によって、阪大生の未来を支援する  
取り組みです。本学ウェブサイトから  
お申し込みください。

## 法人

本学ウェブサイトから本学所定の寄付申込書をダウンロードし、ご記入のうえ、メールもしくは郵送にて未来基金事務局までお送りください。申込内容を確認後、本学から振込手続きのご依頼を送付させていただきますので、記載の指定口座へのお振込みをお願いいたします。入金確認後、寄付金領収書を郵送させていただきます。



### 大阪大学 未来基金事務局

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-8  
TEL : 06-6879-8327  
E-mail : kikin@office.osaka-u.ac.jp

大阪大学未来基金ウェブサイト  
<https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp>

大阪大学未来基金

検索



発行：2025年9月



大阪大学「ワニ博士」

大阪大学を応援いただいている皆さまへ  
大阪大学未来基金状況のご報告



# index

- 02 総長インタビュー
- 06 学生への支援
- 08 教育・研究への支援
- 10 課外活動への支援
- 12 クラウドファンディング
- 14 顕彰
- 15 収支報告

## 大阪大学未来基金概要

大阪大学は、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献する大学となることを志し、多様な知の協奏と共創によって、学問の真髄を極める高いレベルの教育研究を追求しています。また、新たな学問領域の創成、専門分野を超えた知の統合学修を通じて、地球規模の社会問題を解決し、人間性豊かな社会の創造に大きく貢献する人材を輩出します。

大阪大学未来基金は、これらの活動を支える基盤として、学生の活動や教育研究、国際交流、社会連携等、幅広い支援活動に活用しています。

## 編集方針

大阪大学未来基金の寄付者の皆様に、大阪大学に寄付したことで生まれた変化や寄付によって実現したことをお伝えし、ご理解いただくことを目的として大阪大学未来基金活動報告書2025を制作いたしました。総長へのインタビューや学生へのインタビューは新しい試みになります。寄付者の皆様からご理解いただきやすいようにページ構成も見直しました。

発行元  
大阪大学 未来基金事務局  
(共創機構 ディベロップメントオフィス)  
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-8  
E-mail:kikin@office.osaka-u.ac.jp

発行日  
2025年9月発行

# 「地域に生き 世界に伸びる」を 次の100年へ とつなぐために

2031年に創立100周年を迎える大阪大学は、「地域に生き世界に伸びる」というモットーのもと、懐徳堂や適塾に根ざした自由闊達な市民精神を基盤に、社会や時代の要請に応じた取り組みを続けてきました。新しい時代に向けて、変わらないこと、変えていくことを、2025年4月1日に大阪大学第19代総長に就任した熊ノ郷 淳(くまのこう あつし)にインタビューいたしました。

## “自由闊達”とした学風の継承

——総長に就任された感想と決意をお聞かせください。

重要な職責を拝命し、身の引き締まる思いです。本学の精神的源流の一つは、緒方洪庵が開いた適塾です。日本全国から志のある若者たちが集まり、机を並べて静かに教えを受けるのではなく、雑魚寝しながら自由に議論を深め合うような場でした。「さまざまな夢を持った多様な人材が集い、互いに刺激し合って新しい未来を創造する」—これこそが大学のあるべき姿だと考えています。その伝統を継承し、本学の学風である“自由闊達”とした雰囲気の中、学生も研究者も思う存分、学問に没頭できる環境にしたいと改めて思っています。実学の精神のもと、学問の府として次代を担う「人」と「知見」を育んでいくことが私の抱負であり使命だと考えています。

大阪大学総長

熊ノ郷 淳



## 直面する問題に対処しつつ、 その経験をもとに研究を推進

——本学のモットー「地域に生き世界に伸びる」を実感するエピソードを教えてください。

身近な例で言うと、2020年に新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起きた際、本学医学部附属病院（以下、阪大病院）では地域医療を守るために重症患者の受け入れを行いました。また、全国に先駆けて大学内で地域住民へのワクチン接種を本学構成員が一丸となって実施しました。さらに、大阪が医療崩壊と言われた時期も、阪大病院は大阪府下をはじめ阪神地域の関連病院とのネットワークを活用し、病院間で連携して多くの患者さんに対応することができました。



しかし、このことは本学が地域に貢献したということだけのことではありません。その後、本学はこのときに得た検体や臨床情報などのデータをもとに、最新医療の研究を学部を超えて行い、次の世代につなぐ学問的エビデンスとして広く発信するため、世界的にも有名なジャーナルに多くの論文を発表しました。

このような本学の活動に賛同いただいた日本財団から多額の寄付をいただき、次なる感染症の脅威から「いのち」と「くらし」を守るため、2021年4月に「感染症総合教育研究拠点（CiDER）」が設置され、本年2月には感染症の世界的な研究施設となる大阪大学・日本財団感染症センターが竣工しました。

——「実学の阪大」を象徴する医薬品も注目を集めたそうですね。

私の恩師でもある本学第14代総長の岸本忠三先生がサイトカイン「IL-6」を発見したことから、企業との協働によってトシリズマブ（商品名アクテムラ）という抗体薬が開発されました。関節リウマチの治療薬として今でも世界中で使われており、本学発の基礎研究が世界中の患者さんを救う画期的な医薬品の開発につながった「実学の阪大」の成果として有名です。その抗体薬は新型コロナウイルス感染症肺炎の治療にも有効性がみられ、再び注目を浴びました。

## 寄付を通じた支援が 大きな原動力に

——大阪大学にとって「寄付者」というステークホルダーはどのような存在でしょうか。

寄付者の皆様は、本学創設時からの欠かせないパートナーであり、支え手です。本学は他の帝国大学とは異なり、関西の財界や政界、そして大阪府市民の熱意ある活動の末に創設されたというユニークな歴史を持っています。その後も、外来伝染病の制圧を目的とした微生物病研究所をはじめ、社会の要請に応じた施設が民間からの寄付によって設立・運営されています。寄付者の皆様からの支援なくしては成立し得ないのが本学なのです。

——大阪大学未来基金のなかの「ゆめ基金」（P11コラム参照）が充実することによる、社会へのインパクトをどのようにお考えでしょうか。

ご寄付やご寄付を原資にした資金運用による運用益で大学財政の安定性・持続性が高まれば、適塾のように自由闊達とした雰囲気の中かで学問に没頭できるようになります。短期的な成果にとらわれず腰を据えて取り組む基礎研究や、画期的なブレイクスルーにつながるようなチャレンジングな研究にも大胆に資源を投じることができます。そういった大学経営が定着すれば、大学への寄付が社会の発展に直結するという意識が広まり、教育や研究がもはや大学だけのものではなく、社会全体のプロジェクトだという文化の醸成につながります。また、奨学金制度を拡充して、才能ある人材が経済格差に左右されずに存分に学べる環境を用意するという大学の重要な使命も果たせるでしょう。

## 次の100年を共に築くために

——寄付者の皆様へメッセージをお願いします。

平素より大阪大学を温かくご支援くださっている皆様に、心より御礼申し上げます。皆様からのご厚意とご支援の一つひとつが本学の教育・研究を力強く後押しし、ひいては社会に新たな価値を生み出す原動力となっています。大学を取り巻く環境が時代とともに変化するなかで、皆様の存在はますます重要になっています。

皆様のご支援なしには成し得なかった教育・研究の成果がこれまで数多くあります。その感謝の念を忘れず、皆様と志を共にしながら「地域に生き世界に伸びる」大阪大学をさらに前進させていきたいと思ひます。次の100年を築くための礎を、共に構築していきましょう。引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



総長インタビュー全文は  
こちらからご覧になれます。



### 熊ノ郷 淳（くまのこう あつし）

1966年生まれ、大阪府出身。85年大阪大学医学部に入学。卒業後、内科臨床研修を経て大学院に進学し、医学博士号を取得。2007年大阪大学微生物病研究所教授に就任。08年より世界トップレベル研究拠点（WPI）である大阪大学免疫学フロンティア研究センター教授を兼任。11年からは大阪大学大学院医学系研究科・呼吸器・免疫内科学教授を務め、医学・免疫学分野における教育・研究に尽力。その後、大阪大学副理事、同大学院医学系研究科長、大阪大学参与を歴任し、25年4月より現職。

#### ●これまでの研究

専門は内科学、免疫学。セマフォリンの免疫系における役割を初めて解明するなど研究成果を重ね、新型コロナウイルスの研究でも最前線に立つ役割を果たす。日本免疫学会賞、大阪科学賞など受賞多数。

#### ●趣味・息抜き

「音楽やお笑いが好きです。音楽は分野を問わずいろいろなものを聴きますし、お笑いは毎年M-1グランプリを楽しみにして、放送後の有料配信もチェックします。普段はSNSを見て回ったり、MLBのシーズン中は大谷選手の試合をチェックしたりすることが息抜きになっています」。



# 実験を通して 挑むイオンの 新たな集積化

基礎工学部 電子物理科学科  
エレクトロニクスコース4年生  
仮山 史織（かりやましおり）さん



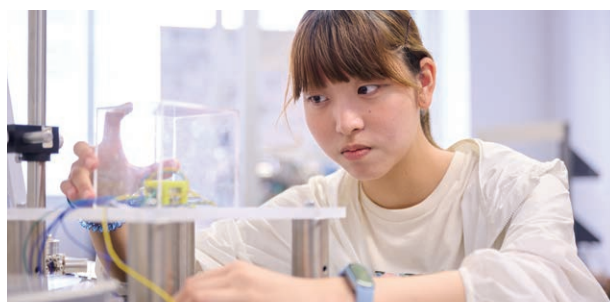
インタビュー  
全文はこちら  
からご覧  
いただけます。



## ゆめ基金・学部学生による自主研究奨励事業

### テーマ探しから始まった研究

高校時代、人工智能に興味があり、その発展には新しいコンピュータが必要だということを知りました。なかでも量子コンピュータに関係することを学びたいと思い、研究が盛んな大阪大学を選びました。自主研究奨励事業については1年生のときから知っていましたが、「研究はしたいけど具体的に何をすればよいのかわからない」状態でした。1、2年生の間にさまざまな研究室を訪ねて研究内容を伺ったりすることで、3年生でやっと研究テーマを決めることができ、応募しました。



量子コンピュータを実現する方法の1つにイオントラップという方式があります。量子コンピュータのためにイオンを捕まえて制御する必要があるのですが、そのイオンをたくさん集められる装置の構造や集積化の方法を見つけることを研究テーマに選びました。ゆめ基金のご支援は、その実験装置を製作

する資金にさせていただきました。新しい構造の検証のために、簡単な装置を作り、実験する必要があったのですが、材料や部品が高価だったので、ご支援をいただけてとてもありがたかったです。

### 俯瞰的な視野を身につけたい

実験ではその時々で壁があり、その壁を乗り越えての繰り返しで、結果的に想定していたところまではたどり着けなかったのですが、それはそれで次に進むための道が見つかったと思っています。これまで、研究はひとりで黙々とするものだと思っていたのですが、アドバイザーの先生をはじめ、周りの方たちとコミュニケーションをとることが研究をスムーズに進めるために大事なことの1つだというのが私にとっての学びでした。また、より良い研究をするためには研究分野での深い知識や俯瞰的に見る力を身につける必要があると感じました。とくに、きちんとした結果を出すために“すべきこと”の管理がまだまだできていないと痛感させられました。

自主研究を通して研究がどういうものなのか、自分に必要なことは何がわかったので、自主研究で行った研究をこれからも継続したいですし、入学時には憧れるだけだった博士課程にも進学しようと考えています。

## ゆめ基金・学部学生による自主研究奨励事業

### 地元の地域防災活動がテーマ

地域の防災活動をテーマに自主研究を行いました。中学時代から地域の防災教育に取り組んでおり、自主防災会に青少年部を立ち上げて、地域の方に楽しく防災について学んでもらう活動を行ってきました。これまで続けてきた防災活動を、大学では研究として勉強しようと考えて、大阪大学に進学しました。

自主研究では、地元の徳島市津田新浜地区の自主防災活動や防災教育に携わってきた方々へのインタビュー調査や、1軒1軒を訪問して南海トラフ巨大地震に対する備えの有無や意識、地震後にどんな街にしていきたいかという事前復興まちづくりについての



# 南海トラフ地震を 見据えた 地域防災活動

人間科学部 人間科学科2年生  
戒井 光来（えびすい みらい）さん

インタビュー  
全文はこちら  
からご覧  
いただけます。



アンケート調査を行いました。調査のために大阪と徳島を何度も往復する必要があり、その交通費などにゆめ基金の支援を活用しました。そのおかげで、現地で生の声をしっかりと聞くことができました。

### 研究成果を社会に広めるために

これまでは、「とにかく防災活動しよう」という思いで続けてきましたが、自主研究を通して、「防災活動を持続可能な形で後輩たちに引き継ぐにはどうすれば良いか」「他の地域にも広めていくような活動につなげられるか」といった新たな視点を得ることができました。研究として成功要因や手法を明らかにし、将来的に継承したり広めていったりできればと思っています。

大阪大学に入って、地元では得られなかった刺激をいろいろ受けることができました。友人のなかには、防災教育が熱心でない地域や、そもそも災害リスクの低い地域から来た人もいます。次の自主研究では、そんな周りの友人たちも一緒に徳島に連れて行って、引き続き防災教育の研究を行いたいと考えています。大阪で得られた人脈を徳島につなぎ、参加したみんなにとって良い経験になるような活動にするつもりです。



# 学部・研究科等プロジェクト

大阪大学は11学部15研究科6附置研究所がある日本屈指の研究型総合大学です。特定の学部や研究科などの教育や研究に用途を限定した特定基金をご用意しています。学部・研究科等プロジェクトは52のプロジェクトがあります。2024年度は52プロジェクト合計で4億4,698万円のご寄付になりました。52プロジェクトの中から医学系研究科・医学部と文学部よりご報告いたします。

プロジェクト数  
(2025年3月末時点) 2024年度寄付総額

# 52件 4億4,698万円

特定基金 医学系研究科・医学部教育研究事業

## 国際的な視野と高度な専門性を備えた人材を育成



2024年度ダブルディグリープログラムを修了した学生2名と  
総長の熊ノ郷、キャンパス・アジアプログラム事務局職員

タイ・マヒドン大学での国際シンポジウムの様子

キャンパス・アジアプログラムは、文部科学省「世界的健康問題の解決に向けた医学研究グローバルリーダー育成プログラム」として始まり、日本・中国・韓国・タイの連携校の間で質を保証した留学経験、特に、ダブルディグリープログラムとして国を超えた二大学にて医学分野における2つの博士号取得を目指すものです。ご寄付は、留学生支援(派遣・受入)に活用させていただきました。

2024年度には大阪大学と北京大学においてそれぞれの博士後期課程を修了した学生が各大学より博士号を授与されました。未来基金のご支援により、学生たちは充実した学生生活を送りながらプログラムを履修し、日中両国の教育課程を修了しました。国際的な視野と高度な専門性を備えた人材を育成することができました。

また、2025年1月には、キャンパス・アジアプログラムの一環として国際シンポジウムがタイ・バンコクのマヒドン大学にて開催され、大阪大学を含め4カ国8校の学生と教員が参加いたしました。シンポジウムでは各大学の最新の研究成果に加えて、支援を受けて学位を取得した学生の発表も行われ、同プログラムに参加する各国の学生同士が交流する貴重な機会となるとともに、多様な新規アイデアに触れる学術的な場を提供し、参加者全体の知的刺激と学びを深める重要な機会となりました。今後も未来基金のご支援のもと、国際的に活躍できる医学人材の育成と教育環境の整備を一層邁進してまいります。

特定基金 文学部「教育ゆめ基金」

## ご寄付を活用し学生の「ゆめ」を支援

文学部「教育ゆめ基金」を活用し文学部海外留学支援制度奨学金や文学研究科大学院生海外調査等助成事業を実施しています。海外留学支援制度奨学金では、2024年度は2名を支援いたしました。フランスのパリ・シテ大学へ1年間留学した川副彩季さん(文学部フランス文学専修4年)は、「出国前の急激な円安に加え、オリンピック開催に伴う渡航費や物価の高騰は、経済的に大きな懸念でした。しかしこの奨学金がその不安を和らげ、アルバイトでの資金確保に時間を取られすぎることなく、学問に励む時間や現地の人々と深く交流する時間を確保できました」と振り返ります。

海外調査等助成事業では、2025年度は10名を支援することができました。大学院文学研究科 博士後期課程Anna Shimomuraさんは、2024年7月、ペルー・リマで開催されたMemory Studies Association(MSA)第8回年次大会に参加し、「コンラッドとシェンケヴィチにおける植民地主義的暴力の記憶と演出」をテーマに発表を行いました。MSAは記憶研究の国際的な中心的学会であり、南米の脱植民地主義運動に関わる研究者との対話は、今後の研究に新たな視点をもたらしました。現地訪問は、将来的に取り組む予定の研究にもつながる貴重な経験となっています。



ボルドーにてモーリアックの小説の舞台を訪ねて  
(川副彩季さん)

ペルー内戦の記憶をテーマにしたパフォーマンス  
(Anna Shimomuraさん)

### column

## 特定基金とは？

大阪大学未来基金・特定基金は、目的を特定したご寄付です。学部・研究科等プロジェクトのほかに、以下のプロジェクトがあります。プロジェクト数は2025年3月末時点での数です。

- 全学プロジェクト(3)
- 修学支援・研究者等支援のプロジェクト(3)
- 学部・研究科等のプロジェクト(52)
- 課外活動等のプロジェクト(33)
- 冠プロジェクト(9)
- その他のプロジェクト(13)
- クラウドファンディング

### \ 応援の声 /



金水 敏 様

放送大学大阪学習センター所長／  
大阪大学大学院文学研究科名誉教授

私は2016年から2年間、文学部長・文学研究科長を務めましたが、未来基金、文学部教育ゆめ基金等の寄付金に大いに助けら

れました。この経験もあり、2022年に

退職した折に、人文学研究科に対して些少ながら寄付をさせていただきました。大阪大学の人文学を盛り立てるために、ぜひ皆様方からの未来基金・文学部ゆめ基金への寄付を賜りたいと強く願っております。



# 課外活動プロジェクト

大阪大学には学部学生と大学院生を合わせて、2万3,234名が在籍しています(2025年5月1日現在)。学生による課外活動に関する特定基金のプロジェクト数は33あります。2024年度は33プロジェクト合計で2,561万円のご寄付になりました。33プロジェクトの中から体育会ラグビー部と中之島山岳部よりご報告いたします。

課外活動プロジェクト  
(2025年3月末時点)

2024年度寄付総額

# 33件 2,561万円

特定基金 体育会ラグビー部支援事業

## 充実した活動環境を整え、チームを強化



2024年8月の菅平合宿。グラウンドでの集合写真

2024年度リーグ戦にてBリーグ残留を果たした時の様子

平素より体育会ラグビー部の活動に格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。皆様の温かいご支援により、遠征や練習環境の充実を図ることができ、心より御礼申し上げます。

2024年8月に実施した菅平合宿において、移動用の貸切バス費用として基金を活用させていただきました。この合宿では、普段は交流機会のない相手との試合や合同練習を通じて、貴重な経験を積むことができました。また、秋にはストレッチャーを購入し、より安全に活動できる環境を整えました。

こうした充実した環境の下で練習に励んだ結果、2024年9月から行われた関西大学ラグビーリーグでは、チーム目標の一つであったBリーグ残留を果たすことができました。2025年度は「Bリーグ6位以上」を目標に掲げ、部員一丸となって日々練習に励んでおります。さらに、2031年の創部100周年を見据え、トレーニング施設の整備を目指して未来基金への積立も進めております。つきましては、当部の今後の活動継続・発展のために、皆様からご寄付を賜りたく、お願い申し上げます。今後とも、体育会ラグビー部への変わらぬご支援・ご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

特定基金 中之島山岳部支援事業

## 初心者向けの登山から3000m級の縦走や山岳登攀まで、活動の幅が広がりました！

中之島山岳部では六甲山から日本アルプスなど全国の山を登り、一部の部員に関してはロッククライミングや海外登山など本格的な技術を要する登山も行っていました。しかし、その際、ネックになっていたのが交通費や装備費用の問題でした。2024年度では、レンタカー代や備品代を未来基金から支出させて頂き、特にまだ慣れていない新入生でも参加しやすい、また、技術を身に付けやすい企画を様々な企画など学生らしく楽しい活動も行っていました。皆様のご寄付のおかげで安全な山行が実施でき、必ず辛い時が伴う登山を仲間とともに乗り越えるという貴重な経験を積むことができる部員が増え、部活も活気づいてまいりました。今後もアイゼンやロープ等を使った本格的な登山や体育館に設置された阪大ウォールを活かしたボルダリング等に挑戦しつつ、後輩たちに安全に登山を楽しむ技術を継承できるように努めてまいります。今後はテントやシュラフ、老朽化した備品の購入に使用させて頂きたいと考えております。



六甲山系でのナイトハイクでは、テント泊を実施。

初心者向けのリードクライミング講習会。新入生も上まで到達することができました。

北岳周辺の縦走コースを一泊で回りきるというチャレンジングな企画。かなりハードだったようですが、一生モノの思い出になりました。

### ／ 応援の声 ／



玉巻 裕章 様

大阪大学ラグビー倶楽部  
(旧称・大阪大学ラグビー部OB会)会長

大阪大学ラグビー部は2023年度入替戦に勝利しBリーグに昇格、2025年度はBリーグでの戦いが3シーズン目となります。創部100周年の記念事業の一環として、選手諸君の能力を最大限に引き出すとともに怪我を防止する目的で、筋力トレーニング施設の建設に向けて未来基金に寄付を呼びかけています。2025年6月時点で合計648万円のご寄付をいただきました。この場を借りてご寄付いただいた皆様にお礼を申し上げるとともに目標額の1500万円に向けて引き続きご支援をお願いする次第です。

### column

## ゆめ基金とは？

大阪大学未来基金には、「特定基金」に加えて「ゆめ基金」があります。ゆめ基金とは、未来社会の「ゆめ」を実現させるため大阪大学を応援していただく基金です。ゆめ基金の運用益をもとに、未来を支える学生支援、教育研究支援、国際交流支援、社会連携支援などの事業に活用しています。6～7ページに掲載した学生インタビューは、ゆめ基金を活用した「学部学生による自主研究奨励事業」に採択された学生インタビューです。



## クラウドファンディング

大阪大学では2018年からREADYFOR株式会社との提携によるクラウドファンディングを実施しています。これまで研究や学生による課外活動など41のプロジェクトが目標金額を達成しプロジェクトが成立しています(2025年6月末時点)。のべ1万2,100人以上、目標を大幅に超える総額3億4,500万円以上のご寄付となっています。

成立したプロジェクト数  
(2025年6月末までの累積)

41件

寄付者総数  
(2025年6月末までの累積)

1万2,139名

寄付総額(2025年6月末までの累積)

3億4,537万6,000円

ご支援ありがとうございました!

大阪大学クラウドファンディング



クラウドファンディング

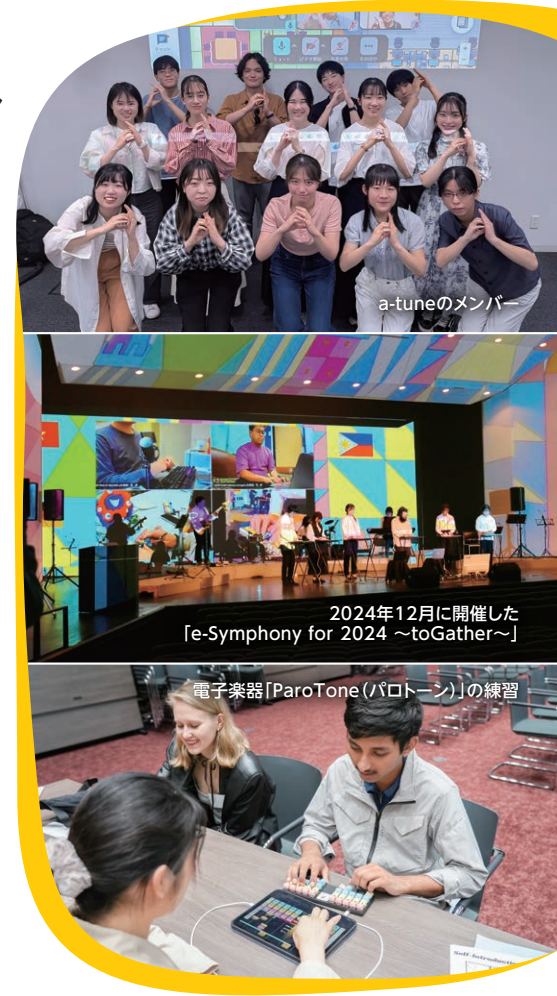
言語の壁を越え音楽で世界を繋ぐ!  
念願のオンラインオーケストラ開催へ

## プロジェクションマッピングと 演奏の融合や音の遅延緩和を実現

私たちa-tuneは、各個人が自分とは異なる相手の立場、背景を尊重しあえる社会を「UNITY」と定義し、理念に掲げています。そして、その実現に向けて言語の壁を越える音楽で海外学生とつながるオンラインオーケストラ「e-Symphony」を開催しています。2024年は、資金獲得と認知度向上を目的にクラウドファンディングに挑戦し、300万円以上のご寄付を賜りました。それにより「e-Symphony for 2024 ～toGather～」ではプロジェクションマッピングと演奏の融合や音の遅延緩和を実現し、約200名の方にご来場いただきました。その様子はNHKやNHK Worldで放映していただきました。ご支援いただいた方々に心より感謝申し上げます。念願の大阪・関西万博での「e-Symphony」も無事に成功し、今後も「UNITY」の実現に向けて邁進してまいります。

大阪大学万博推進室 学生部会サブリーダー 新藤一彦より

万博学生部会a-tuneのクラウドファンディングに心温まるご寄付を頂き大変感謝申し上げます。念願の万博会場でのe-Symphonyを終え、a-tuneが掲げる「UNITY」が広がっている手ごたえを感じています。引き続き、応援のほどよろしくお願いいたします。



a-tuneのメンバー

2024年12月に開催した  
「e-Symphony for 2024 ～toGather～」

電子楽器「ParoTone (パロトーン)」の練習

クラウドファンディング

福島の未来を支える力に!次世代を担う若者たちと築く研究・教育拠点

## 福島拠点に備品を整備し 運営基盤を強化しました

このたびは「福島の未来を支える力に!次世代を担う若者たちと築く研究・教育拠点」にあたたかいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本プロジェクトは、福島第一原発事故に端を発する複雑な社会課題に、自然科学と社会科学の両面から向き合う実践的な教育の場として、2016年から継続してきた「福島浜通り環境放射線研修」をさらに発展・継続させるため、大熊町内に整備した大阪大学福島拠点の運営基盤強化を目的に立ち上げました。

クラウドファンディングでは、目標額を大きく上回る4,474,000円、159名の皆様からのご支援をいただきました。皆様の温かなご支援により、拠点内の備品整備、オンライン配信機材の導入、研修運営体制の充実を進めることができました。科学班や観光班、「はまでいず」など学生主導の活動は着実に広がり、参加者の思考や行動に変化をもたらすとともに、社会とのつながりを深める実践知の発信拠点としての意義も高まっています。

今後は、拠点を活用して研修の通年化を進めるとともに、大熊町の「学び舎ゆめの森」と本学の「めばえ適塾」との連携を通じて、小中高生を含む次世代育成にも取り組んでまいります。



研修室の机を30台購入し環境を整備



大阪大学福島拠点の外観

column

## クラウドファンディングとは?

クラウドファンディングとは、インターネットを通じて不特定多数の人に資金提供を呼びかけて趣旨に賛同した人から資金を集める方法です。「群衆」という意味のクラウド(crowd)と「資金調達」という意味のファンディング(funding)という言葉を組み合わせた言葉です。プロジェクト起草者が目標額と期限を設定し、支援者を募ります。大阪大学公式クラウドファンディングでは、期限内に目標達成しなければ資金を1円も受け取れない「All or Nothing形式」を採用しています。

\ 応援の声 /



米田 眞理子 様

大阪大学薬学部薬学科20期/  
大阪大学薬友会理事

大阪大学公式クラウドファンディングでa-tuneの活動に寄付させていただきました。音楽を通じた国際交流を企画し言語の壁を越え音楽で世界を繋ぐ!

海外の学生とのオンラインオーケストラにより、活動理念である「UNITY」=「各個人が自分とは異なる相手の立場、背景を尊重しあえる社会」の実現を目標に活動しておられます。私たちの夢を実現させるのは、これからの大阪大学の未来のためです。心より応援しています。



## 紺綬褒章

紺綬褒章は、公益のために私財（個人：500万円以上、団体：1,000万円以上）をご寄付された方などを、国として表彰する栄典の一つで、その荣誉のしるしとして授与されます。

本学は、内閣府賞勲局より認定を受けた紺綬褒章の公益団体です。大阪大学未来基金では、要件を満たした個人及び団体のご寄付者にご意向を確認の上、文部科学省に申請いたします。

大阪大学未来基金へのご寄付により紺綬褒章を受章された方は、2025（令和7）年7月までに累計24名1法人となりました。

詳しくはこちらからご覧ください。



2025年5月20日実施



2025年7月11日実施

紺綬褒章が授与されましたら、伝達式を開催し、熊ノ郷総長より伝達物を受章者にお渡ししております。

## 銘板

累計50万円以上のご寄付をいただいた方には、ご意向を確認の上、ご芳名を大阪大学中之島センター及び大阪大学会館に掲示させていただきます。

### 大阪大学中之島センターの銘板

1階ロビーのオープンスペースに掲示しております。

（約3ヶ月に1回の頻度で更新しております。）

### 大阪大学会館の銘板

豊中キャンパス大阪大学会館の階段踊り場に掲示しております。

（年度ごとに更新しております。）



# 未来基金の状況

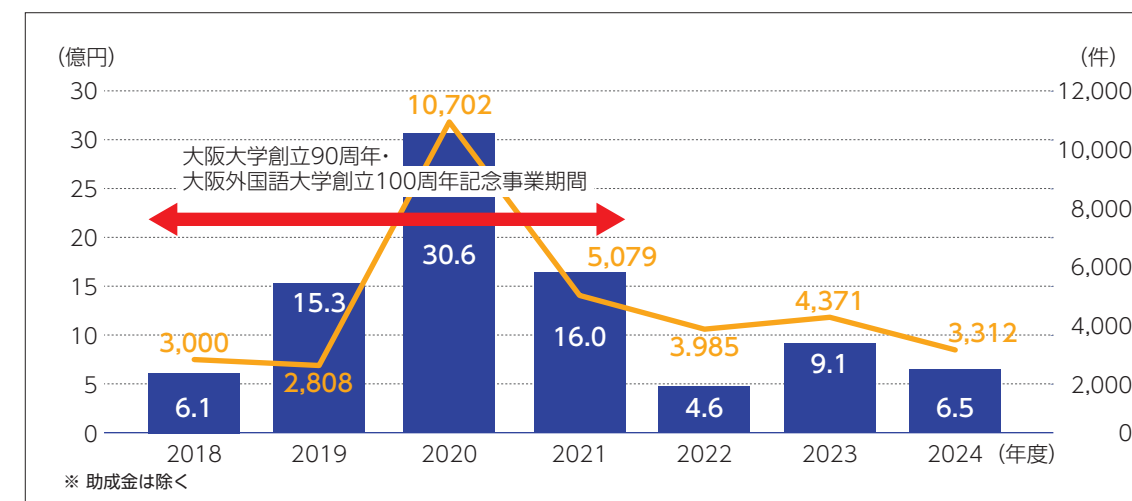
## 大阪大学未来基金の受入総額は138億円に

大阪大学未来基金は、設置当初（2009年5月）からの受入金額の累計が138億円に達しました（2025年3月現在）。収支状況は、以下のとおりとなっております。基金残高は約59.1億円となり、運用による持続的な資金の拡大をふくめ、本学のさまざまな事業に有効活用させていただきます。

当基金は、卒業生をはじめ、地域社会、企業・団体など多くの皆様のご支援に支えられてまいりました。感謝の気持ちを忘れずに、ご寄付くださった皆様の思いを大切にして、大阪大学未来基金事業をさらに充実させてまいりたく、今後とも何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理事（共創担当）・副学長 藤尾 慈

### 近年の寄付額・寄付件数の推移（年度別）



### 収支状況

内訳		累計額（億円）
収入	寄付受入	136.1
	運用益	2.5
	小計	138.6
支出	基金事業への支出	78.1
	活動費	1.4
	小計	79.5
基金残高（2025年3月31日現在）		59.1

※1 助成金は除く ※2 小数点以下第2位を四捨五入

（2009年5月～2025年3月）